

橫濱開港見聞誌

下

特別
凡士
4230
6



門凡4
號 4230
卷 6



杜時計の晩鐘ふ胸さうらゑと聞かゞく積あがたる金巾の綾方色も
白妙ふ暮雪をつらる入船はめで度港ふ懸る心の晴嵐と港崎町の
居るけふあつり濡る夜の兩座敷あつるさう銭の月よかまみも横
文字中ふうららの国印南京さんか手作のちの糖やら雁のあまみも
あつらぬ大交易四方ふ暉夕日景錦あつる硝子障子見渡は異客の
大船がさうと響りよ大筒あつる乗出は洋の方船帆も引や
海道を空みけむりの一文字ハ蒸気船の目印ふ千里と重る万
里の波上追風りぬ早走りハ後の荷物で利益の為古郷へ飾る
錦繪本あつる土産と船出する商賣ふさびとある何国人も同支めん
別の異人とをうの言ふ及ハぬ

慶應元丑夏

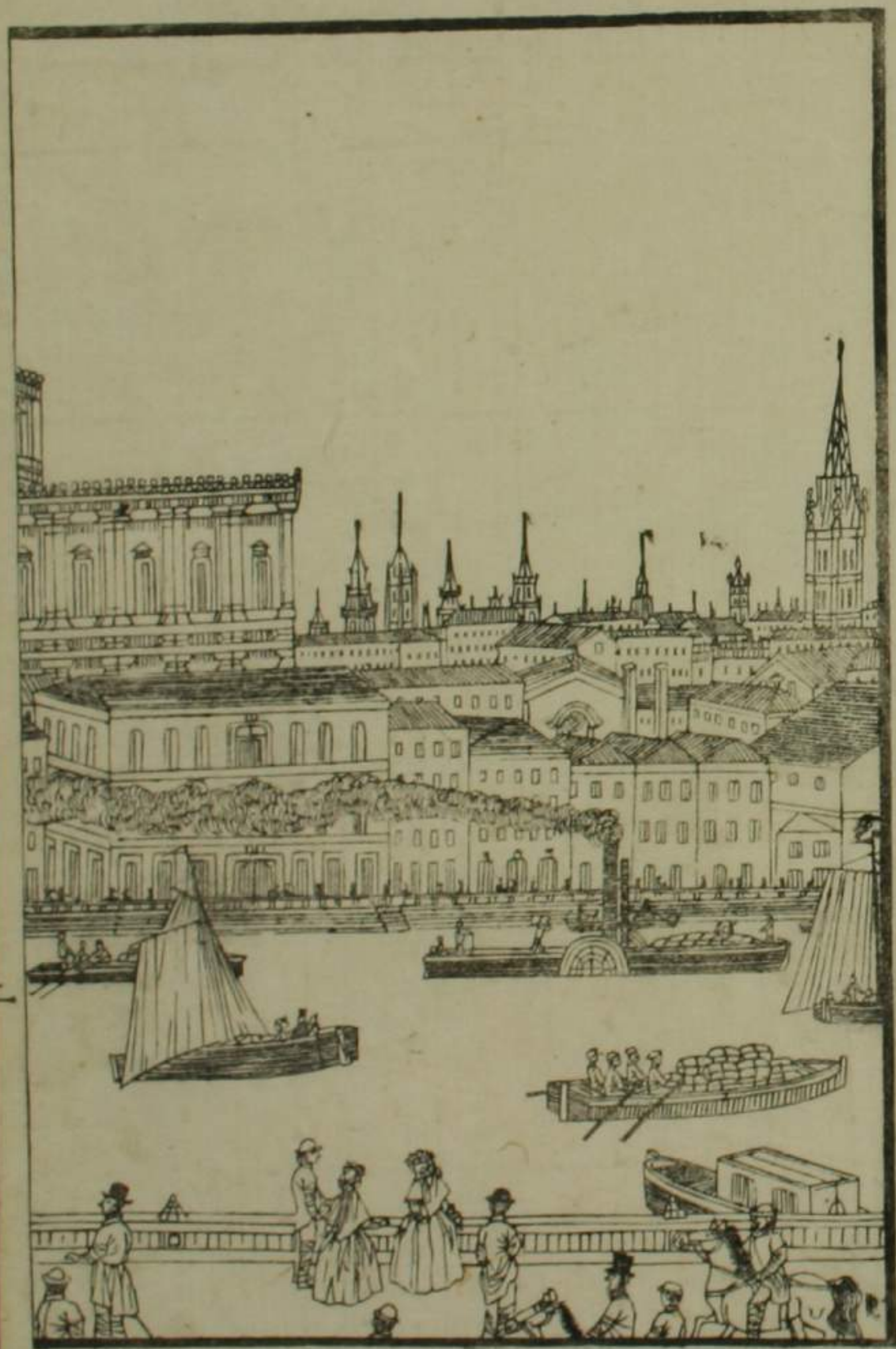


王蘭齋老父識



黄貞六

昭和三十一年
一月十八日
求



大英



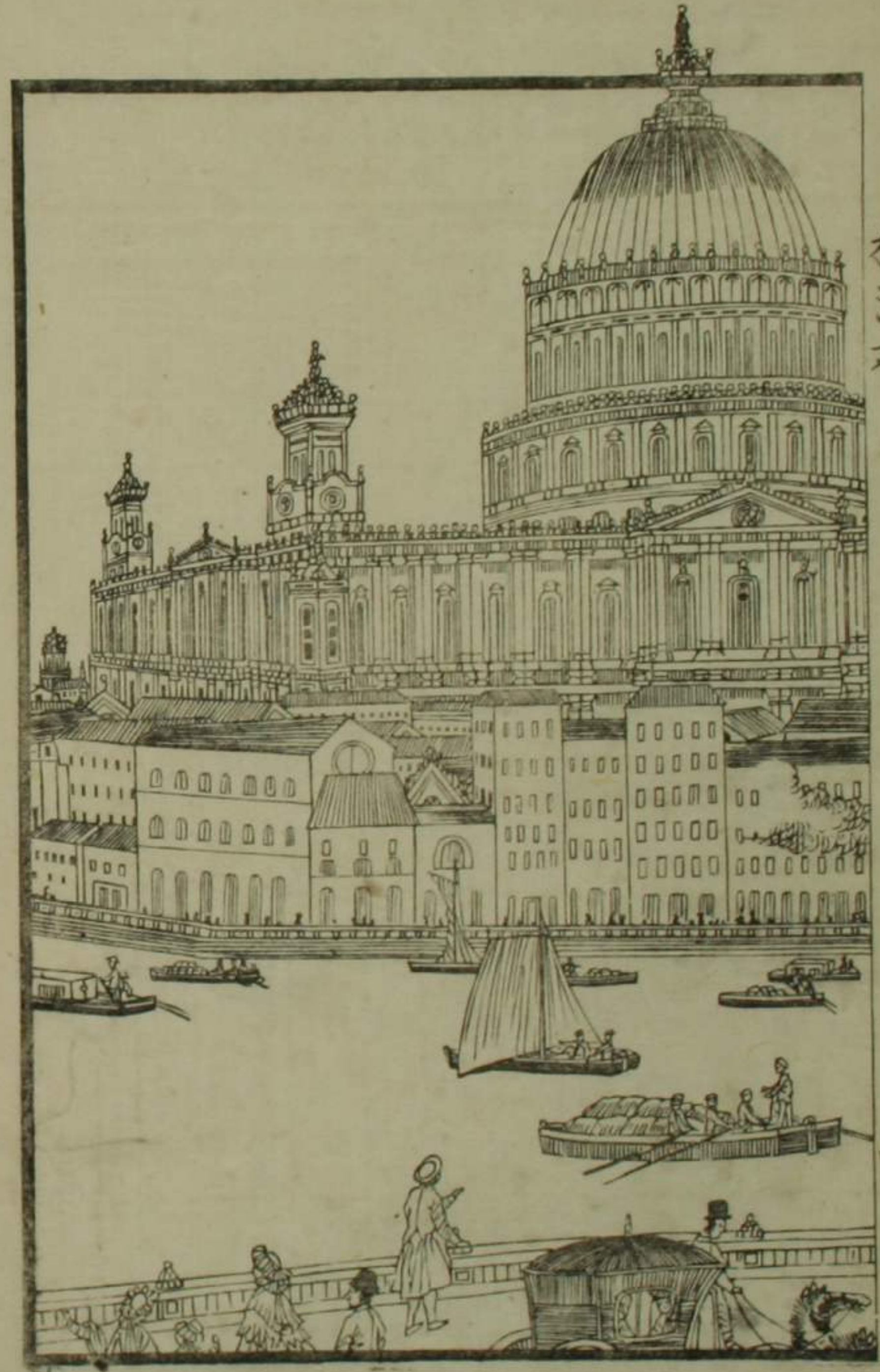
横濱渡未
 英吉利國
 王城城郭
 之
 圖
 此圖者英國之
 銅版有見
 是摸寫以今
 冊中出ス

大英

倫敦河渡
大橋數所
有紙面從
一橋畫其
余畧



黃真不



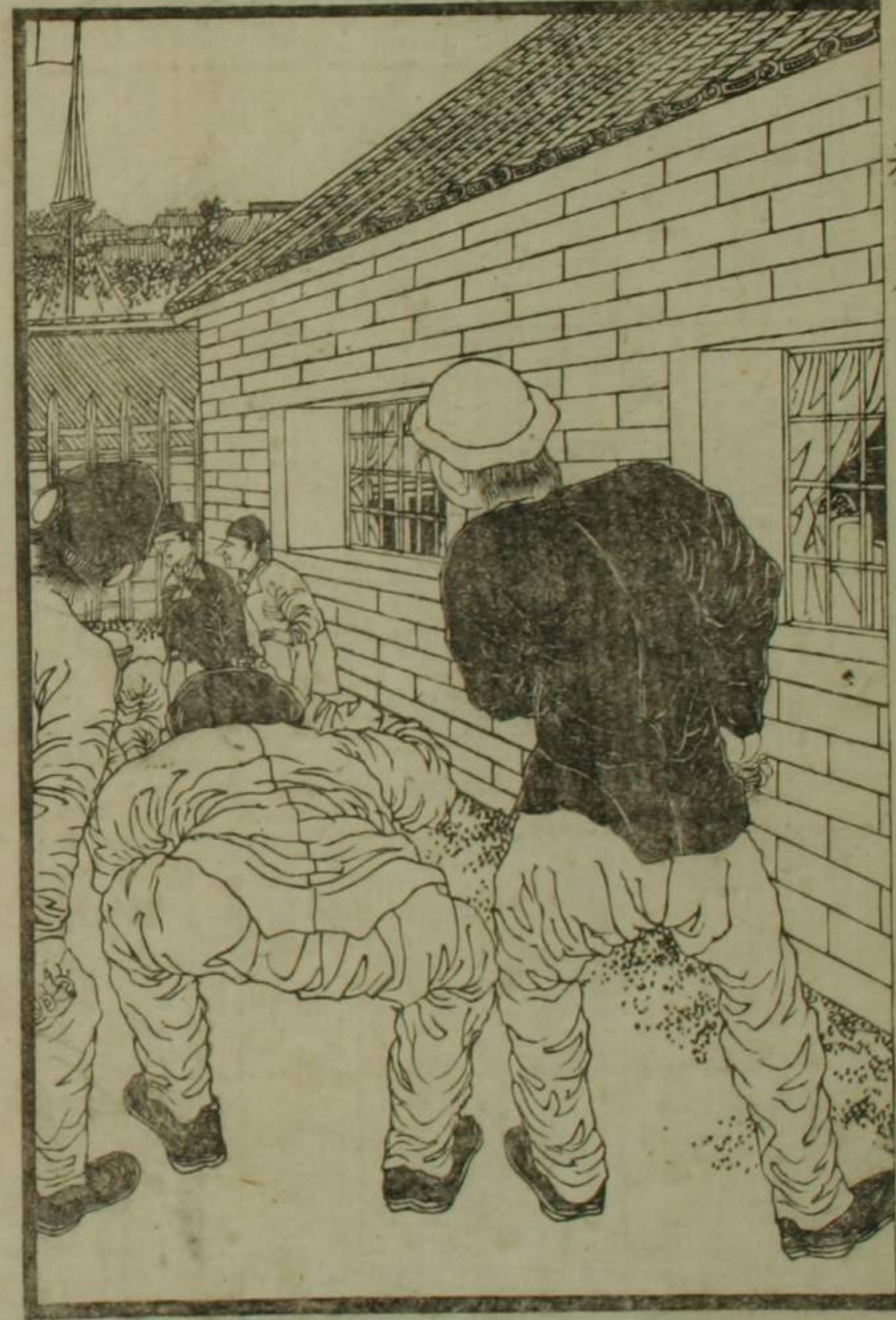
橫濱



此圖ハ異客之
 子供又ハ下人
 の所作なり
 玉當の圖

不詳

日



不詳

三



黄
寛
六



横
寛
六

白壁



奥の女主人
 何ぞ之細看
 客に見込さぬ

黄真六

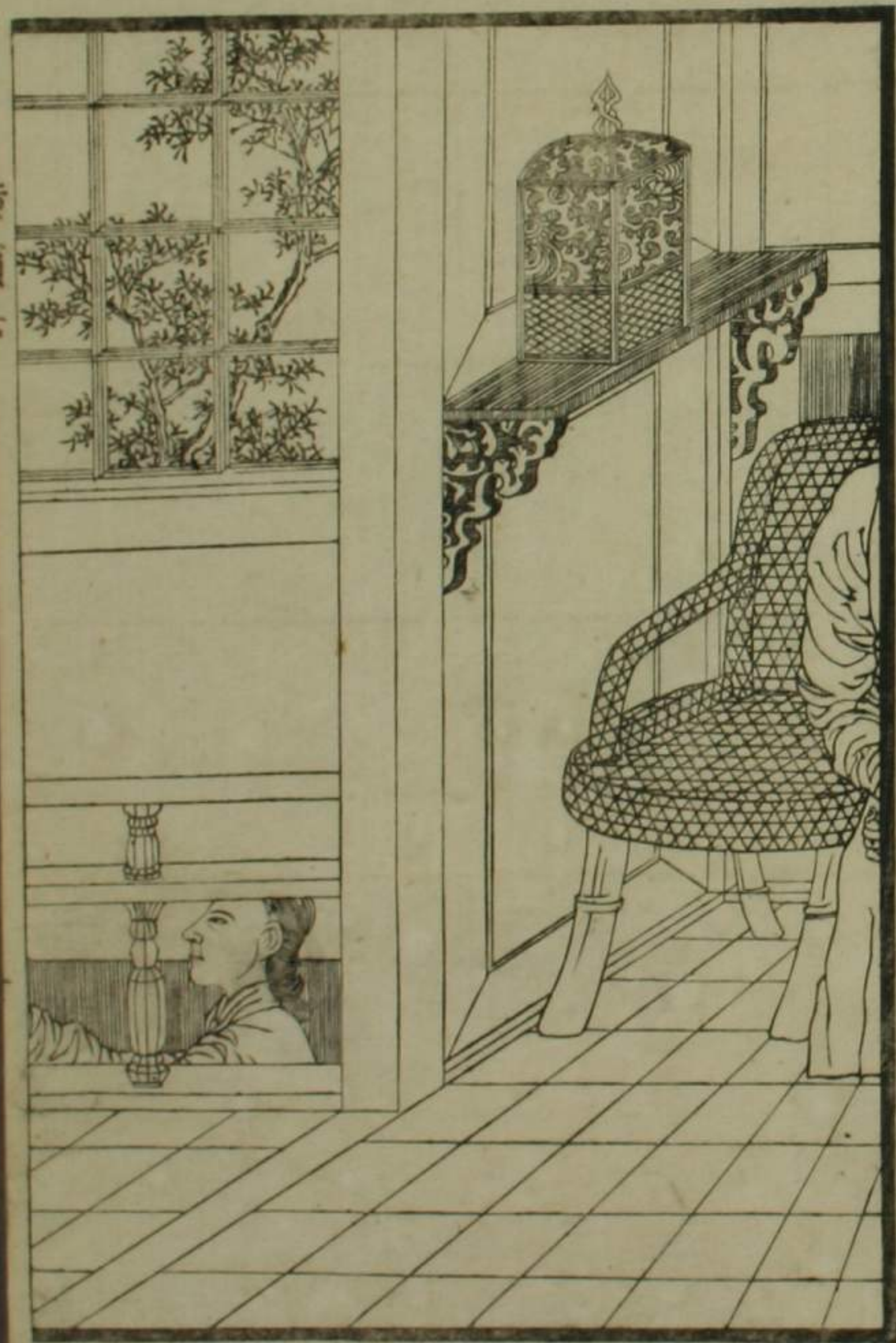
白壁



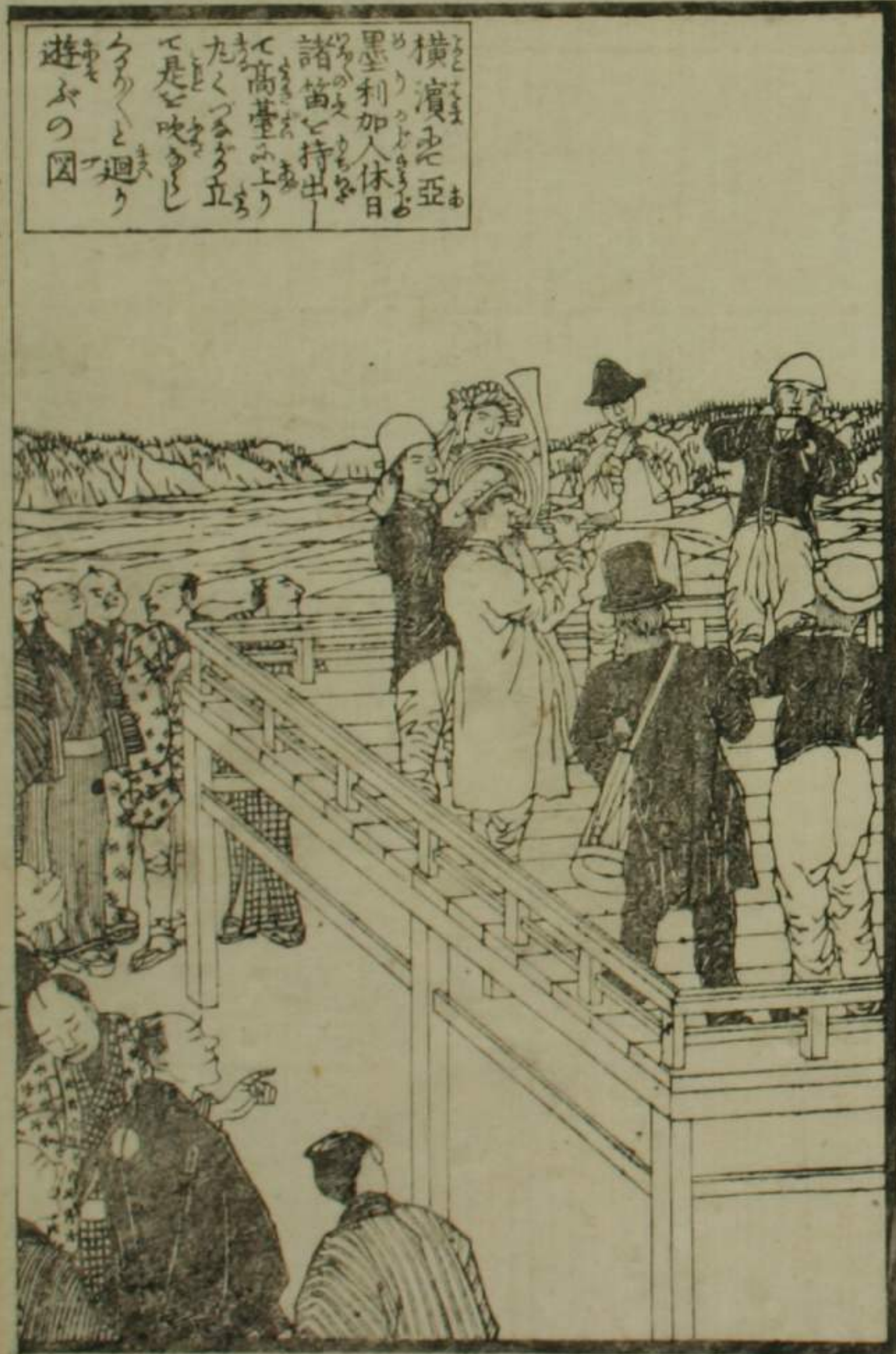
支つてとち
 前み見る処の
 右側 其部屋
 二間ハツ不有

根淵六

五



横濱商館



横濱六

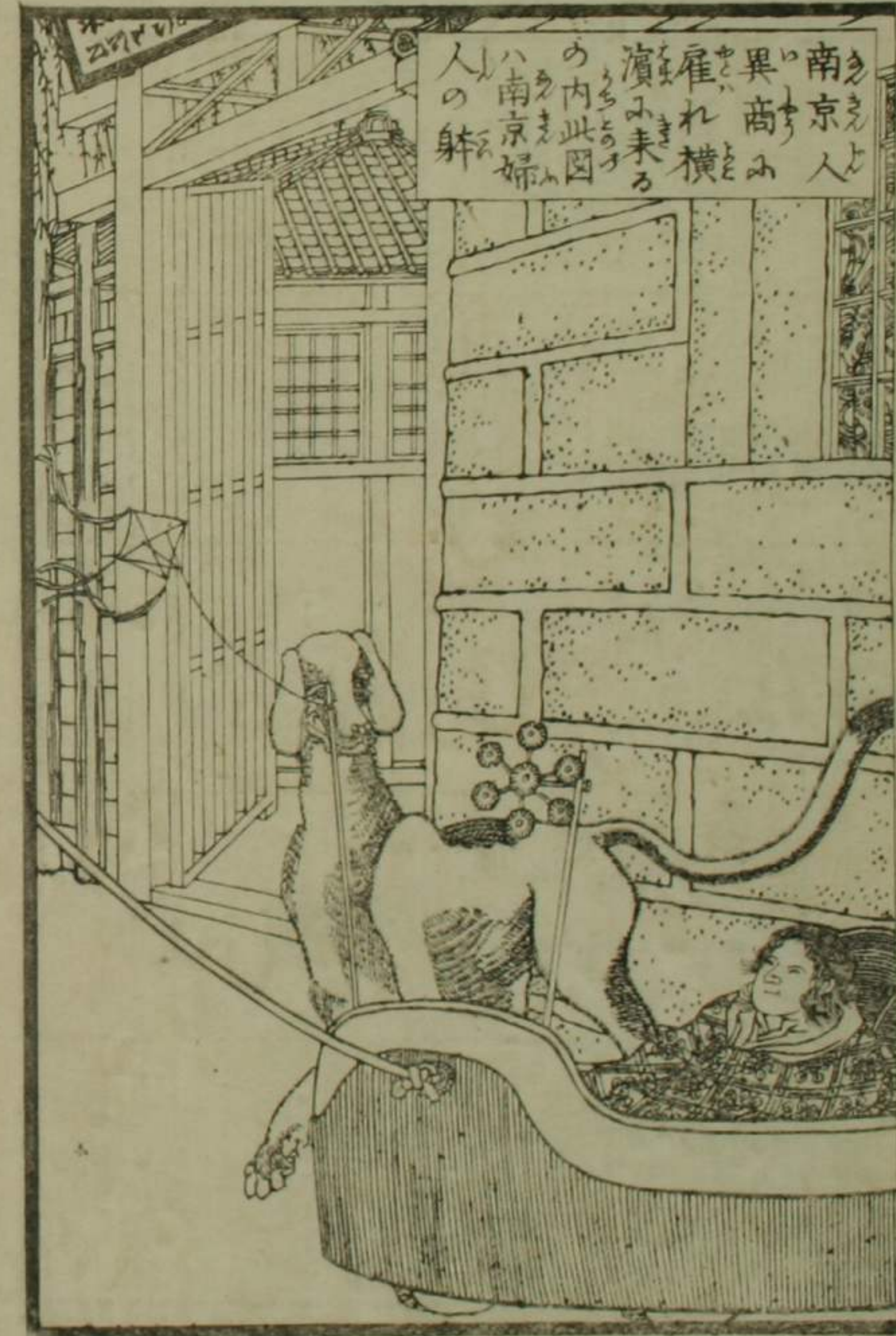


横濱六

七



小窓



南京人
 異商
 雇れ
 濱み
 の内此
 八南京
 人の

木

八

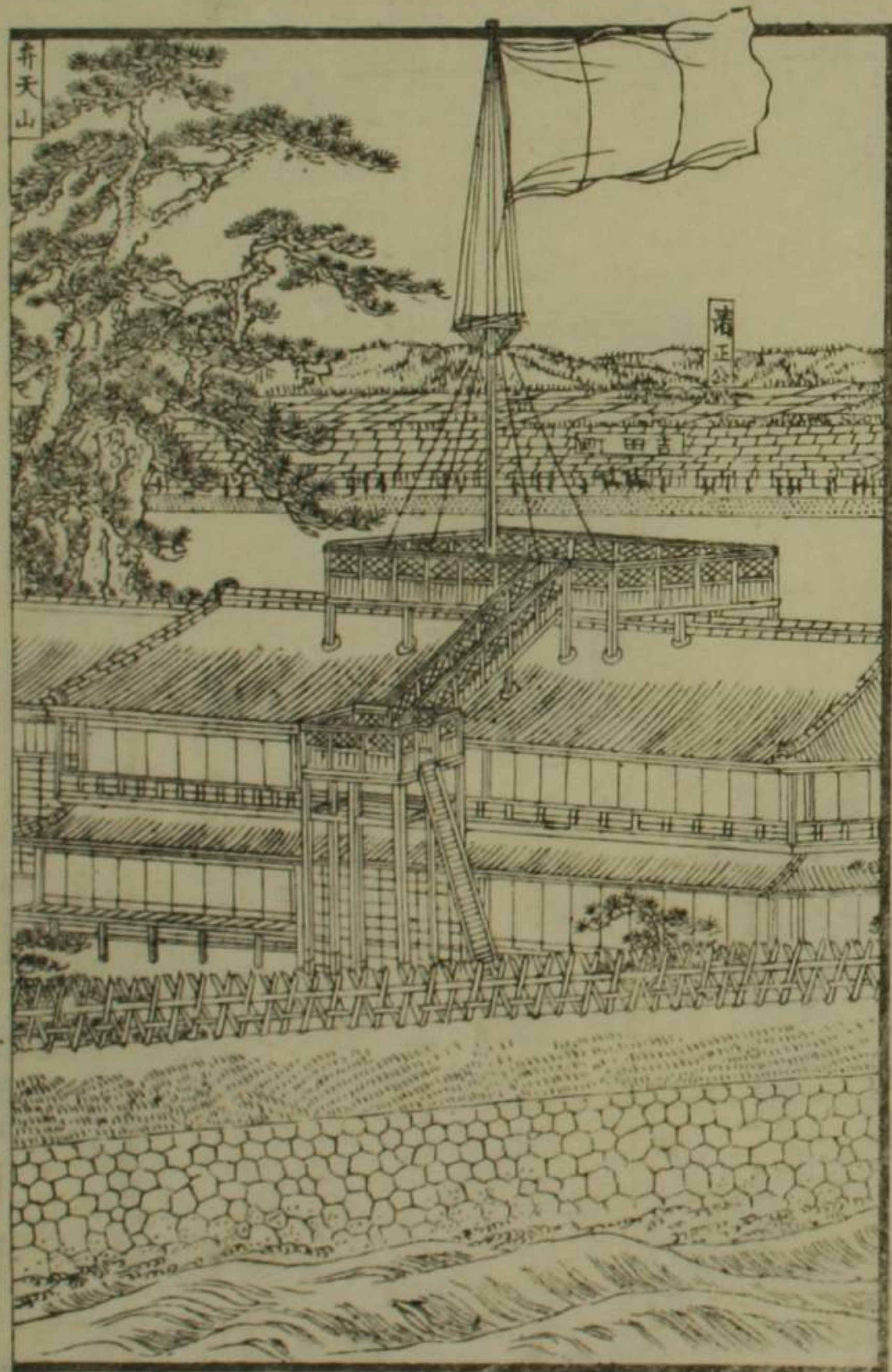




黄寅六

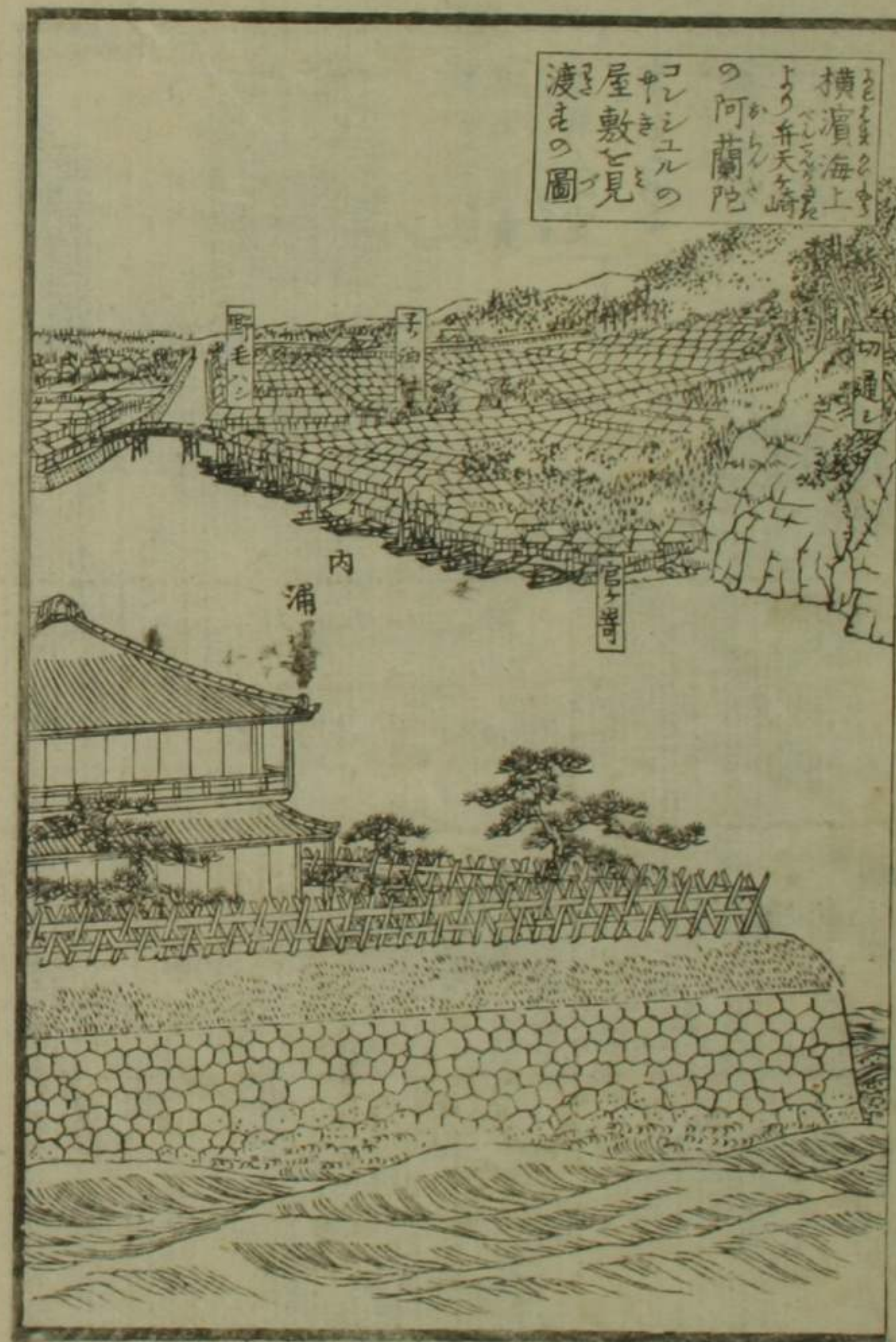


横濱



弁天山

十



横濱海上
より弁天山
の阿蘭陀
コレシユル
ヤキ
屋敷と見
渡すの圖

内
浦

横濱海上

十



東洋



南天竺
 印度亞
 同婦人
 横濱と見
 る如の石版
 の写し
 多

東洋



象怒り鼻
 を以て大樹
 を空中に
 列するの
 圖

昔賣六

十四



昔賣六

十三



南天竺皇帝
亞王家の王
半日光の
行の銅板
繪を見る處



五大州の内歐羅巴の一分英吉利期の国王城下ロンドンに因ハ英吉利期
 みる製処の銅版を撰写して此券中ふゆま又横濱異客の下男或ハ船子
 かと休日ハ商館の間廣さぞろふ會王打又ハ王當との工とまるふ吾国の
 子供さふめんち打ふ同一其十人ある一人大勝ハ此場と立去んとそれと申く
 是をぞんくともさきは是をいりく此場とさるん時ハ勝る物の内と三分の二程
 つと其処へも逃んとともさるる数少るれば大勢組付てそのありさる道とよく
 見ゆる大ゆきのは是をもちあちち多海通りの商館ハ阿蘭陀人其名三ニストル
 館内ハ賣場と初めゆきの其家作と見ゆる木作りととも阿蘭陀の風ゆ
 其入口ハ大障子三枚とさる五色の硝子とゆり張是を向奥の方へ行其形
 火燈口にて天井をば従ひ丸く作り其左右ハ又ニツツの火燈口ありまて白壁の
 ごとく塗るあり其左右の口内ハ若き男女あり何ゆらん手仕をいどきとあるふ
 りその腰の上着とゆきて下着ハ白金巾の筒袖ハ腰ふもいゆ其初とも白巾之

此平氣多此異人香をさゆりてとる人外より同国の異人入来り片手み茶
 見片手此人をぞく此酒を吞ふまろくと心りち愛む口のをみかける
 時未り異人ハロとむむびらんなりと言ふら私ハ其様を酒を吞まは是
 逃さしとつらさ逃のんともま酔ハの時茶の酒を吞と吞と茶を
 臺の上置来り異人とかのひ船子があひて奥の方より出未り外へんとする
 けしあよりあつ組付られ共此船子つた男史せきみ引りて出行との異人ハ
 酒を多く吞と父も有と何とと由喰とあり且深く吞と時つてくたれま
 酒盛の圖の内一人酒をたるとあるは此酒屋の異人二人を手にひき足
 上て何やえんらとて踊りまじけやて一人のたつと有又一人もがらんせぬやうま
 めるりくさぶりととあまをひとさうさう賣人の外三人日本男の内二人をぞく
 又かの書付とやびじをせその係表へつたあま何とも言ひ行より此見世未り酒を

吞者ハ上官ハもさみりて中より下官み至ると見ゆと酒ハ極高ねんの品あり
 とのハ上段ハ筒茶といふ一の金一兩一分二朱がら中段ハ三分一朱をる下段ハ
 下直つる有と人さも異人ハ高直段の酒を見ら内ハ三盃五盃の吞りのあり
 上酒といふ其色をあらをみてもけ有て甘くあきもより是ハ中通りのりの
 み下酒ハ真黒色みてもかくあづく水は有元米木の皮よりあぶつるりの
 との人は是を亞弗利加の俗云黒人此酒を吞と数人のさのさのりといふ
 直さぬとさうく速より又阿蘭陀佛蘭西此州の人能日本酒を好と吞と
 多し南京人元米米を喰と生長すと吾日本みりつとけし酒み至ても地固
 せうらら香むと少く日本酒を灼と吞其外ハ凡日本酒を吞ともと異
 人日本酒ハ換身ふきくと甚とつらあひも又ひと酒多ると云横濱のみと
 きさるさふ記さ多横濱のみ茶屋女小娘もて用まわの此見世未
 る後異人ハのびて知る人と見へ自分香きの酒を出しと吞とみ平氣まり

ちくちくと香い甘くて香や又夢中めて香や知まむ先みりて木皮を挽て
 らるに飯りとまう都て肉桂をひき唐桃をひき椰子の実とまわり蒲萄
 を用ひ此分ハ最上酒の内ありさき酔て踊る程のこ有まくと思へとも
 焼酎を合さひみ酔を出せと見へう又休日小異人数十人ありまて方二間
 どの臺み上り種々かろうさ笛と持出せ丸くあつ居りかて廻りまてその
 笛とあつまを何と名付さやと聞さみ是西里利加めりて外音楽多
 と横濱の人を入り又其国の銅版或ハ石版を見り石を置上りしとある
 九き臺の上め此ありさるまて見る又海岸通りて南京婦人が異人の小児を
 車み入と前の所み南京のつらつ日本の風車を立て長き紐を引て頭上の
 毛色ハ吾日本ハ異てま一ニツツ此如く結び下め白巾とまてハ両足まて
 長く白のたうたの如く其上ハ唐もまの花色々多と
 を用ひ手足の小き子供の大きき見せるとあつとも南京北京まて唐国



の風俗を白巾を以て小児の時より手足をまねを縮むとありと万一手足大
 なる男是をきり入ると其まは実ハ横濱とと思へま廣東福建の地て
 うと思つ此横濱ハ諸州の異人渡来を又来らむと入る銅版石版の画や
 外外国を見らふま南天竺印帝亞王近国みまのありて此国みま
 向み大い戦ひ勝て七の国を切ら本國ハ隔陣あり是を王の婦人まて
 へく其支度をさへ廣野みかまちらひまのありて物と持て王乃
 近く来る時名水のあつて入て作まは傳是敷莫ること王み舌まみ王立あがらみ足て
 香て城み入るま臣下の婦人吾つまの来るとまを又前の如く是を隔陣の
 祝ま常の日も此水を吞む祝事み用とみ此繪西洋人の石版其傳ハ右の如く
 と横濱の人が異人みきたるま我みまを南方の印度みま地につまみ人
 り先年長崎米銅版の鞆鞆の婦人の次女を見らみ能其髪毛を頭上より
 左右みりると三方み長く下るハ鞆鞆國み印度の次女とみらう天竺ハ昔

より長く其女美ありて佛像の観音勢至の尊躰を以てりちあるるありとの
石版印帝亜婦人の髪毛とを左右下は輪の如く先の方を頭上よりさるも
土の妻をさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
と見るふ五色の花をさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
と思へば此印度を極楽国と云ふ真支六の国の国と思ふ然るも此版圖の極精
色あるが面色白く美あり黒色あり有る今横濱の印度人最下民といふさる
るさる上官の白く美あり下民の黒色ありありありありありありありあり
横濱のさるる有る面色さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
ハ極楽国也ハ黒色をさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
がれハ博学の傳をさるる然るも此黒色の人あり日本海邊の人ありさる
げと云ふ程さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

黒人々と思ふと云ふも日本の人ハ血氣つよく生れあがり其色赤色あり
さるる海邊の人其色黒きやうるさるる夏の月日光のさるるさるる血氣
さるるさるるさるる時ハ黒く見ゆる實赤黒きあり此人海邊をさるる住居
さるるさるるさるる黄白みあると思ふ印度国共ハ亞弗利加国の黒人の
さるるさるるさるる水みさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる越
と云ふも其色化さるるさるる大象鼻の力を以て大樹をさるるさるるさるる
より云傳さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
と云傳得さるるさるる其支をさるるさるる大象廣野みさるる時向さるる獅子
のいさるるさるる飛來る此獅子山中の牛を見出し喰らんと牛さるるさるる
へさるる助行獅子のりてさるるさるる尋ねて此原みさるる見ゆる大象あり先の牛ハ此
象喰ひさるると思ひてありける来りて齒をさるるさるるさるるさるる象ハさるる
小向ハ戦ひ或ハ三日三夜又五日物喰みさるるさるるさるるの獅子也さるるさるる

象ハ獅子の引さる何と云ふ事ヤ砂をなすくあり呼ぶ獅子の之
山近く行て出て来ると心や牙をのり大木の根をつらみ引あひく
まの鼻の先をのり根の間へ入り引あひ高くをのり其有様
銅版繪のま此巻中みまあり此時象ハ合千の獅子未らば是非引
へま其あふ牙を折らんと有て此野の土人ハ其後得んて遠く
のうげふ思ひ居る獅子象とも引さるあは出てを争得るのハま
交易の場み持の心大なる利を得るのありとのみ元来此象ハ自極身
鍵を打て引あひと常のまひゆくたは獅子とあはる海中の猛畜
辱と戦ひ一用をつら折る度肉ををらると有と何とあはるのハま
常のまひゆくたは獅子とあはるのありと有と何とあはるのハま
りのく能軍用とま鉄炮もあはるるとあり國王常みとま金銀珠玉の
ふりて用ひ其上に乗て道行まともくその図を写してあは

